

毎月一回15日発行昭和51年11月15日発行・第82号(昭和45年9月4日第三種郵便物認可)

リベルテール

11月号



Libertaire VoL, VII. No. 12

無 政 府 主 義 誌

昭和45年9月4日第3種郵便物認可
昭和51年11月15日発行 第82号

リベルテール 定価一〇〇円(郵便料共)

-
- リベルテール Le Libertaire
 - 1976年11月15日 発行 VoL, VII No. 12
 - 編集兼発行者 三浦精一
 - 発行所 東京都練馬区大泉学園町2190
萩原晋太郎方 リベルテールの会
-

毎月1回15日発行 振替 東京133830番 三浦精一

ロッキード事件は資本主義社会の現実面、そしてその資本主義の上にただよう日本の現実を見せてくれた。それは改めて資本主義とは一体何かと問わなくてはならない。

自由主義という仮面のもとに、営利(搾取)のために生産、流通を行ない、政治を左右しているいわゆる自由資本主義と、共産主義の仮面をかぶって、全生産、全資本を国家に集中し、軍事と警察を握った官僚が全体的統制を行なう共産主義という名の資本主義がある。マルクスは前者の在り方を革命して後者を實現し、これを踏み台として無権力な社会主義社会への移行を考えたが、その手段として権力を握る革命をを不可欠とした。そしてスターリンは「社会主義社会への移行は近い」と言ったこともある。ロシア民衆の心にひそむ無政府社会への強い要望に対しての政治的ジェスチュアだった。権力にしがみつくレーニンやスターリン等々の権力官僚を抹殺せずに無権力社会に移行できる訳はない。同じくやみは、無政府主義者と称したことのある毛沢東のものでもあった。土に生きる無政府的農民と劉小奇一派の近代化、そして産業主義との間にはさまれてジレンマに迷い抜いた毛沢東、政府機構や軍の御し難い階層的官僚機構、そこにはレーニンやスターリン式の東洋的専政君主とは異った農民君主の新しい姿がある。しかし権力で解決できないものを彼は知ったであろう。近代化の波はどうすることもできない必至である。しかし人間はいかに生きねばならないかの問題、経済と労働の問題は未解決なのである。

ひるがえって、ロッキード事件と現実の日本人の精神構造はどうか。権力国家の下に金と資本の支配下で、贈賄や収賄が何故悪いのだと抗議する者がいないのは不思議だ。田中も収賄していいと弁明するに過ぎない。贈賄も収賄も資本主義社会、官僚社会では常識なのだ。しかしここに金や権力で泣かされて来た民衆の地底の声がある。シナでは老残遊記を読めば官吏が収賄してくれるからこそ人民は助かるという考え方が厳存し、官吏も乞食の一種なのである。今の共産党員は昔の官吏である。収賄、贈賄で多くのごとが解決しているだろうことはシナで生活したことのある者は疑わないだろう。日本でも商人や営利会社で働く者は贈収賄が生命線であることも知っている。社用族の存在もこのためだ。防衛庁からアメリカ力を出張したら、どんなに厚遇されるか誰でも知っている。社用族は日本だけではない。そしてこれは贈収賄とは別口である。ロッキードにとっては日本上陸の手土産でしかなかった。朴政権も贈賄工作をしたと伝えられている。今後の総選挙で候補者の一人が使う数千万円は一体どこから来るのだろう。表向きではロッキードの贈収賄を非難しても腹の底は別だということが今度の選挙の清き一票の姿として現われなければならない。

権力で金力で解決できないものがある。権力や金力で解決しようとしてはならないものがある。それらを権力や金力で解決できると考えたり、しようとするもの、それが資本主義や共産主義、そしてその政府である。こうしたことを諸君は考えたことがあるか。新しい歴史の第一ページにふみこむためには、このこ

三
浦
精
一

大杉栄・労働運動・第1次〜第4次 復刻	5,000 円	何が私をこうさせたか 金子ふみ子獄中手記決定版	2,400 円
純正無政府主義 農村社会革命講座八八舟三著	150 円	解説：瀬戸内晴美 金子ふみ子歌集	500 円
階級闘争説の誤謬 八八舟三著	130 円	権藤成郎著作集 2 農村自救論・日本農制史談	3,000 円
無政府共産主義 一人類解放の道 -八八舟三著	700 円	大杉栄秘蔵 増補 堀保子ほか 19 氏著	1,000 円
無政府主義組織論 マラテスタ著	150 円	無政府主義論 エンリコ・マラテスタ著	300 円
選挙戦に際して 一付略伝 - マラテスタ著	150 円	ディナミック 石川三四郎個人紙復刻版	3,000 円
農民の中へ マラテスタ著	200 円	アナキスト革命 ジョージ・バレット著	150 円
マフノの農民運動 石川三四郎著	150 円	西洋社会主義運動史 石川三四郎著	1,000 円
ペルテロー著／山鹿泰治訳		ロシア革命の批判 A ベルクマン著	200 円
平民の鐘 - 無政府の福音 -	150 円	黒色青年 黒色青年連盟機関紙 大正15年	2,500 円
無政府主義者は答える 岩佐佐太郎著	150 円	創刊号より昭和6年終刊号まで復刻	
石川三四郎ほか三氏著		黒色戦線 アナキズム文芸思想誌 第1次	5,000 円
日本無政府主義運動史 第一編	350 円	昭和4年創刊号より終刊号まで復刻	
反逆者の牢獄手記 大杉・朴烈ら十二氏著	200 円	労働運動第5次昭和2年復刊号より終刊号復刻	〈近刊〉
獄窓から 一増補決定版 和田久太郎著	800 円	差別とアナキズム・水平社運動と	
死刑囚の思い出 一増補決定版 古田次郎著	700 円	アナ・ボル抗争史 宮崎晃著	1,600 円
一・二皇居発煙筒事件訴訟記録 -		君民共治論 権藤成郎著作集第3巻	3,000 円
天皇制破壊への渦動	300 円	無支配への道 マラテスタ著作集1	300 円
植谷雄高氏の天皇批判の証言収載		アナキズムのABC ベルクマン著	100 円
雑誌労働運動（大正13年3月号発禁を復刻）		古事記神話の新研究 石川三四郎選集1	2,200 円
大杉栄・伊藤野枝追悼号	400 円	〈解説：石川三四郎論 大沢正道〉	
漫文・漫画 大杉栄・望月桂共著	1,000 円	〒372 群馬県伊勢崎市中町和田 電0270-24-0776	
自治民範（全） 権藤成郎著作集 第一巻	3,000 円	郵便振替口座 宇都宮 11015 黒色戦線社 大島英三郎	
正義と道徳 クロボトキン著麻生義訳	250 円	東京事務所 電03-735-1246	
難波大助大逆事件 虎ノ門で現天虎を狙撃	900 円	〒144 東京都大田区西蒲田7丁目61番8号エンリコビル	
弁証法的唯物史観の批判 石川三四郎著	150 円	国鉄蒲田駅西口下車、蒲田銀座アーケード街歩いて5分突き	
無政府主義とサンジカリズム 石川三四郎著	150 円	左隣、毎月第2、第4日曜日午後1時より4時共学読書会、初心者に	
進化と革命 補正版 付石川書簡集		販売書店 東京、神田ウニタ・新宿模索舎・吉祥寺ウニタ	
ルクレツ著 石川三四郎訳	150 円	早稲田文庫堂、京都、中・阪町二条上・3月書房	

野	一	レ	ア	実	新	目
火	波	ジ	メ	感	しい	次
.....	万	ュ	シ	的	歴史	
.....	波	メ	ン	知	の	
.....		・	妄	識	第一	
.....		グ	語	人	ペー	
.....		ル	録	論	ジ	
.....		ー			(常	
.....		プ	ハ	は	識	
.....		、	ギ	し	的	
.....		日	シ	は	に)	
.....		本	ン	し		
.....		黒		は	三	
.....		色		る	浦	
.....		連			精	
.....		盟			一	
.....						
15	11	8	6	2	1	

美感的知識人論

はしもと・よしはる

リベルテールサロンで「知識人」が話題になった。

A君説では知識人は不要である。大体リベルテールをみても先づ題名からして、フランス語であり、辞書を引いて意味が判らない。何故日本語でやらないのか。内容だって、ヨーロッパに顔を向けている。これは知識人の悪習で英・仏・独文交じりでないと文章が書けず、その翻訳を有難がるどころから来ているのではないか。岩佐作太郎をみてみると英語なんかでて来ない。英語を使うなら「」でも意味を併記すべきである。語学が少々できるからと言ってエリート面(づら)をする必要はないのである。A君ももっともB君説ではこのリベルテールを工場の休み時間にキャッチボールをしている工員にみせたら何んというか? こんな意味が判らない、そこでもうどうしようもないでしょう。だから日本語にすべきです。A君そのあとをつづけて漢字なら「自由」というだけでも意味がある。リベルテールでは矢張り何のことか判らない。B君は言う。大体幸徳や大杉を有難がる気が判れない。彼等はインテリ階級である。俺達はインテリは必要じゃない。左翼人だって負の

側に立つ出世主義者が多い。英雄は必要じゃないんだ。インテリは排撃しなければいけない等々、これに対し中年と老年は守勢に立たされ、それでも知性が必要だよ。知性って何んですか。それは君、分析したり抽象化する能力だよ。兎角外国のアナキズムのものを訳したり解説するだけいいということにはなりませんよ。それはまあそうだ……というように塩梅で時間切れになった。アナキストのインテリ嫌いは今に始まったことではない。大杉あたりから労働組合運動の展開につれて、積極的なインテリ追放が行われていたようだ。最近でも聞き書きを筆記した岩波新書山辺健太郎著の「社会主義運動半生記」を見るとAアナキストの不勉強Vの項がありそここう書いてある。

「だいたいアナの連中は、さきほども言ったように、理論の勉強はあまりしなかったようですが、それには二つの原因があったようです。そのひとつは、大杉栄のような魅力のある指導者がいて、この人のものは労働者もインテリゲンツィアもみな読んでおり、大杉はアナキズムの教祖みたいだったから、あえて外国のアナキズム文献を翻訳したりする必要がなかったからだと思います。」

第二の理由は共産主義理論のほうはマルクス・エンゲ

ルスの体系があつて、あとはみな、この解説者でしょう。レーニンのような人でも、マルクス・エンゲルスの理論を發展させたが、これとは別の体系をたてた人ではありません。こういうふうには「万世一系」ではないが、共産主義の理論は一つの源から出たのに反し、アナキズムの理論はブルードン、スティルナー、バクーニン、クロボトキンと、みなそれぞれの教祖的人物として個性をもっている……」

半生記の著者はこの一文の前後で、クロのA青年に訴うVが大杉訳と共に英文でも当時アナ・ボルに関係なくよく読まれたことやブルードンのA財産とは盗みだVという言葉だけが有名になり、よく演説会の枕言葉になった事例を追憶している。

これに対して敢て反論する必要はないが、アナ文献の翻訳についていえば、当時だってマラテスターやロッカー、エマ、ベルクマンのものまでそれぞれ時期に応じて別のアナキスト達が訳出している。たゞそれらは書店のルートに乗らずアナ関係の機関誌紙に載ったものの本になる率が少く、その為対外的に眼に触れる機会が少かったのは現在の状況とさして変るまい。大杉の個性はジャーナリスチックの面が強く、あの翻訳量は生計のためが大部分であつたが、一度彼の口を突いて出ると、例え

ば労働者自紙論だつて、労働者が自分で要求をそれに書かねばならぬということだし、A労働者の解放は労働者自身の手(力)で……Vの言葉は第一インテリの「労働者の解放は労働者の仕事(Travail)である」を翻訳したのだが、それは十分個性的であるとともに同時代の労働者の心の琴線に触れ、一時期の時代精神の流れを創出したのであつた。それこそ真のインテリゲンチヤの仕事なのである。だからと言ってそれを大杉栄の私有物とみなすことはできない。マルクスに就いて批評したバクーニンの言葉は次ぎのように説明している。

「マルクスは言う。私の理念は私のもの以外の誰のものでもないことを希望する……と。しかし人がよく知っているのは、よりよいまた偉大な理念は通常、すべての人の本能的作業の所産であつて、個人が所有するのは、その表現・形式だけである。マルクスはある理念が彼によって表現された時から、他者により理解され、受入れられるのであつて、それ(理念)は彼のものであると同時に他者の所有になるのを理解しようとしなない。」ローマのインスタンションナルへの手紙

Aアナキストが経済的独占や権威の専制に反逆するなら、知的独占やそのもたらす権威の専制に反対するのは当然である。けれどその反動として、個的(孤独)な知

的作業を放棄して、幻想の中で破壊を夢みることで能が足りるとしたら、知性習得の努力をやめてアナキストの天国が愚者の楽園だと幻視するなら、それは個人生活の裁量の範囲で自由であるとしても、他者に同意を求めることはできないだろう。八青年に訴うVのどの文節でも民衆に奉仕する知性の獲得、民衆と共に生活する立場は教えているが、それによって民衆と同じだけ愚昧になれとは教えていない。知識は日進月歩する。民衆は知識をよきにつけ悪しきにつけ自己のやり方で吸収して進歩するのであって、揮一本で駕籠をかつぐのが唯一の交通機関であった時代に帰ろうとは望まないのだ。アナキストは民衆を蔑視しない、指導するのではなく、共働するのである。そこで先導（イニシヤチブを執る）することとはあってもその地位は不要となれば放棄し、リコール（解任）に応じる。

知識に限っていえば、知識の習得が個人的である限りどれだけ多く習得しても問題はない。最近の時事漫画では米国の大学生が原爆の製造数式を扉に落書きしていたが、民衆の知識の蓄積がそこまで到達したのなら、巷にサク裂する爆弾の類が明治時代の加波山事件の黒色火薬より数段と進歩したものになって当然である。体制側が恐れるのはそれを使って体制が破壊されることであって

体制奉仕に参加すれば先の大学生などさしずめエリートコースにいる訳だろう。そこで知識は力であり、この力は使途によって善悪が判定されるということが判る。ヴェトナム戦争で爆撃機からナバームや細菌をばらまいた航空士は、命令に従ったまでで、自己の知識を活用した技術者に過ぎないとしても、ヴェトナムの地を荒廃させ人畜を殺傷したことによって人類の法廷では告発されるのだ。そこで支配の用具としての知識はこれを執るべきでないということになる。少くともアナキストが反対してきたのはこの種の知識と知識人であろう。

次ぎに知識にはその個々の性質として、理論化、法則化（抽象化作用）が含まれている。これに対するアナキストの反応はバクーニンの書きもの（科学について、哲学論等）に詳しいが、要約すれば抽象的理論が常に生きいきとした現実の生を乾枯らびたものにするということである。もともと現実の中からより多くの事例と経験を踏まえて一個の法則を作りあげるのにかかわらず、それが現実処理に役立たないとすれば不幸な事ではある。バクーニンが否定するのはそのような抽象的理論や知識であって、この視点からはクロボトキンも言っているように、教師に対し、もっと現実に関与し知識を与えて欲しいと、学生が要求すべきである。抽象的能力や分析、

総合の知的努力までも放棄せよとは言っていない。

ヨーロッパの近代的知性はレオナルド・ダ・ヴィンチに体现されているが、彼の信条は事実尊重であり、自然に学ぶということだった。アリストテレス以来の抽象言語と神学の權威に守られたロゴスを打破するには、自分の眼と手、それに繰返す実験の成果だった。われわれは同じように有名無名の他者の作った權威、集積した知識の海の中で溺死しないためには自己を守らなければならない。この意味での知識と知識人には私も反対である。私が想像する理論の花は水中花のようなものである。あれは外気の中では乾いてかさかして味がない。理論とはそういうものだ。けれど一度、コップの水（現実）の中に入れると、四方に拡がり、花をつけ枝葉を伸ばし暫時人の眼を楽しませて呉れる。理論が現実生きる人びとの胸のうちに落ち、共感を得て動く時は、実に山をも動かし、ギリシアの神殿をも揺り動かすのだ。そのようにして人類は生きのびてきたと歴史は教えている。

インテリゲンチヤはその習得した知識の性質によって普遍性を求める。それ故容易にインタナショナルになるが、精神的放浪者になるか土着者にとどまるかは彼の選択に委せられている。アナキヤが人間性に根ざすものなら、それは国境、人種、言語、習俗を越えるものと

して、普遍的だと考えたところにアナキストのインタナショナルイズムがある。だからといって、風土と人種と習俗の違いを無視し、一率に同じものを押しつけよとは誰も言っていない。むしろ個性的なものを深化育成して初めて普遍性に到達するのであり、そこに連合の必要性と有用性を認めているのである。インテリゲンチヤは弱い。以前八青白いインテリVの蔑称があった。それは知識や情報を持って生活する者、知的技術者に対する恐れとやかみの混じったもので、知的誠実さはインテリゲンチヤの特性である。体制側は常にこの知的誠実さを恫喝と脅迫と名譽や地位の贈賄であがってきた。民衆もまた八出世Vによってこれを認めてきたのである。問われているのは知的誠実さを自己流の理窟をつけて転回させるインテリゲンチヤの在り方であって、人間とは等しく弱い者であるとの諷刺（どうかい）や言訳はここでは認められないということである。

要約すれば知性は知識から生まれる。知識の習得過程で、またそれを実践する技術の習得過程でわれわれは知的誠実さや技術的良心を獲得する。むしろ知識それ自体、技術それ自体も歴史的背景をもち、既に階級的色合いを濃く持っているだろう。何故なら過去の経験成果の集積が知識・技術の大部分を構成しているからだ。しかしそ

の新たな活用方法は習得したわれわれの手にあるのであ

アメシヨン妄語録

ハギシン

って、これをバクやクロのさし示した方向性において活用するなら、それで知識・技術が生きるのだと考えよう。また知的労働と肉体的労働の組換えを要請し、実践する人にとっては、知識人と労働者の反目を既定の事実とし

たり、これをおおるような言動はつゝしみたい。同じようにわれわれの知性の在り方、運動の経験を伝えている幸徳・大杉をことさらに低めて、ひとしなみに扱うのは過大に尊重するのと同じく間違いである。彼等はそれぞれの時代に役割を果たしたのであって、その事実を正當に評価し、尊重することから始めるべきであろう。偶像破壊は貴重な人間像まで打砕くことではない筈だし、またそうしたとしても事実の重みは何の痛みも感じない。

もっとも私個人について言えばA君B君C君はそれぞれ本も読み、理窟もいい、ある程度の実行力の持主達だから心配はしていない。幸徳の陳弁書では、「人同主義（無政府主義のこと）を奉ずる労働者は、私の見聞した処でも、他の一般労働者に比すれば、読書もし、品行もよく、酒も煙草も飲まぬのが多いのです。彼等は決して乱暴者ではないのであります。」

有難いことにアナキストをかように受けあって呉れている。この期待されるアナキスト像にできるだけ近

づきたいものだ。

①日本のパーティでは自己紹介の時、「何々を造っている（又は売っている）何々社の誰ソレです」式で、勤め先をおもにいう。ひどい奴はコマーシャルをはじめ。名の知れた会社にいる事を自慢したいのだろうか。

だが米国では、専門や特技など自己の売込みをやる。米国には日本のような終身雇傭制がないし、労働者に愛社精神なんてものは殆どない。イヤになったら、さっさとやめてしまう。

今、米国の工場経営者にとって頭痛の種は、それよりも作業時間中に酒や麻薬を呑む連中がふえている事だ。全米中の大問題になっているという。オイルショック以後の不況による大量のレイ・オフで、表面的には少なくなったようだが。

大学や大学院の卒業生が職につけず、ブルーカラーに転身する例が多い事は、日本にも知られている。

こうした現象は近いうち日本にも起るだろう、と米人は見ている。

②IWWに行った時、彼らは日本の社会党が分裂して第

二自民党というべき民社党ができた事は知っていた。

だが社会党が十把一カラゲに左派といっても親中派と親ソ派が対立しており、しかも佐々木派、江田派、安井派、向坂派、勝間田派、成田派と派閥が多いと話したらどうしても理解できないといっていた。

親分子分的関係に利害がからんで派閥ができるのは、日本の島国根性特有のものかも知れない。

③IWWの『産業労働者』のマイクロフィルムが、ウェインステイト大に保存されている事は先にも記した。

私がミシガン大図書館に行つて驚いたのは、英・仏・独・露のアナキズム関係図書が、千冊以上あった事だ。日本ではこれだけそろえた所はないだろう。東洋言語学科のアジア図書館に行くと、中・鮮・日語の図書がある。

日本語の本だけで二〇万冊近くある。思想関係では、幸徳全集、大杉全集、特高資料復刻版もある。被差別部落関係だけでも、百冊はこえていた。

米国議会図書館では日本の書籍雑誌をすべてとりよせているが、今に日本の事を調べるのに米国に行かなければならなくなるだろう。

④被差別部落といえは、日本ではそれをはじめ、台湾人や朝鮮人の棄民、アイヌと、未だに差別問題が解決されていない。天皇も官僚も政党も財閥も煩かむりの儘だ。

では、米国の白黒問題は昔から有名だが、実際はどうだろう。

インディアンが米建国二〇〇年を怒り、星条旗を逆さにかかげ反対運動のキャラバンを行った事が、NHKテレビで報じられた。だが何人が参加して、どんなコースを通ったのか、米各地で見た人は全くといっていい位ない。

五〇〇人位のある工場では、給料も食堂も差別はなかった。ニューヨークやシカゴのホテル、レストラン、デパートでも白人と黒人は平等に働いていた。

ロサンゼルスには、スペイン風の黒人高級住宅街がある。プールでも公園でも博物館でも、白人と黒人の子供たちは仲よく遊んでいた。

華僑の活躍は昔から知られているが、戦後は朝鮮人の小ビジネスの進出がふえている。

異民族との結婚は多いし、ハーフが好奇的な目で見られる事もない。

というわけで、一見ただけではわかる筈がない。専門に調べてまわりたい所だが、私にはその余裕がない。

⑤米国では、工場地域、商業地域、住宅地域と厳しく指定されている。住宅地域も、アパート地帯と一戸建地帯に分かれている。一戸建地帯は、公園の中に住んでいる

ような環境だ。リスが遊びまわっているのも、日本人の目には珍しい。

狭い日本で、ヘタに形ばかり米国の真似をしたり、抜本的な対策を持てないから、高層アパートや建売小住宅がゴチャゴチャ建ち並び、窓にはオシメや布団がぶらさがり、次第にスラム化してゆくのだ。

⑥戦争中、私は私大の夜学にかよっていた。戦後追放された跳ね上りの右翼教授もいたが、平岡市蔵教授の話だけは今でも印象に残っている。

「日本人は米国を知らなさすぎる。諸君は米人はパンを食うと思っているが、彼らの主食は肉だ。だから体力があるし、年をとっても重労働できる。」

また、土地が広いから、隣へ行くにも自動車を利用しなければならぬ。日本の自転車と同じように普及している。私も留学した時は自動車を買った。なければ生活できないからだ。その自動車もベルトコンベアで、一分間何台というスピードで生産されている。

米国の飛行機生産目標を「天文学的数字」と笑うのは大変な見当違いだ。設備だけでなく資源も豊富だから、彼らはそれを達成するだけの力がある。……」

百聞は一見にしかず、私は行って見て今更のように、全くバカな戦争をしたものだと思った。

数車線のハイウェイの両側は、行けども行けども広大な唐キビ畑や麦畑。山を切崩した中を走れば、これまた大森林の連続である。空から見るとジェット機なのに、緑・茶・黄のモザイクタイルみたいな広大な土地、或はは赤肌の山岳の上に、停止している感じだ。日本の空は十数回飛んだが、実にケタ違いだ。

州立公園では小さい方だというLEITCHにも行ったが、それでも全長二五キロほどある。ナイアガラを小さくしたような二つの滝、林におおわれたグランドキャニオンに似たそり立つ石肌の崖、大きな溪流のベンド。日本にいては想像できないスケールであった。

「11・10天皇制を考える会」集会より

（在京の有志によって集会がもたれた。普通の週日の午後一時からの集りのため、在位50年記念の恩典で半ドン役所勤めでもない限り、働く人びとの出席は期待薄である。それでも若い人がつどい、それぞれ日頃から思っていることを語ったようである。もっとも、八展望がないから運動がないV/Aアナキズムは政治思想としてあり得ても、運動として体制を撃つことができないのではないV/Aアナでやっているから十分で、何々組織など考えないV等、迷論卓説も飛入りしていた。判ったのは

し悪しは別として国家政治の問題や物象化された世界の存立構造の問題については考察が進んでいるが、市民社会内における日常性や心的世界の問題については捨象が見られる。

状況について

①すべての運動を政治性へと還元し、その中で閉塞して喜々としている諸君とは異なり、この問題はより切実な私たちに掛かっている。

②いわゆる戦后民主主義のもたらした価値の多様性は市民社会においては八恣意性Vをもたらし、権力としてはそれを乗り越え統合する必要がある、私たちの方でもそれを止揚し、政治性をつき破り、国家を打ち抜く個の思想とそれに立脚した運動を創設せねばならない。

③過渡期における運動・態度については現在的には耐えるしかない。

―グループ11・10・レジュメ

11・10集会資料

一歩前進するとはどういうことか。既存の道ではなく、道なき道へ向けて一歩をふみ出すとはどういうことか。アナキズムの勝利は、そのような小さな前進の積み重ねによって得られるであらう。そして、本日の集会も

誰もが自分なりにやってはいるけど。それを客観的に検証したり、相互批判をしたり、連絡をしあう共働広場がないので行き悩んでいるということである。Aアナキーはいいがアナキズムは駄目だV/A兎角、イストと名がつけばそれだけで観念論者だV/A誰が何んというかと俺は俺なりにやっているんだ。組織なんかいらぬよV/まて多士齊々、アナキーは各地に分散して存在するが組織化には距離があるというところか。昔、こうした存在的アナキストを無理にレーニン主義の組織化をした苦い経験をもつわれわれには、新しい組み立てに取組まなければならぬ。当日、会に提出されたレジュメの要約をかかげる。」

アナキズム・アナキストの現状における位置

①いわゆるアナキズムは現在の市民社会内においての関係が観念・想像の領域内においてしか流通してないと思われまます。つまりアナキズムが情念や芸術としてしか成立してないという事であり、市民社会から疎外され、それと逆立する国家政治領域においては、己の存在思想としてのアナキズムとは無縁の表現形態を取らざるを得ない。

②一方、マルクス主義諸党派・諸潮流においてはその良

そのような未知の領域への確実な一歩となることを願うものです。

現在のアナキズム運動の現状は、あまりにも問題が山積していることは、参加された皆さん総ての認められるところだと思います。私たちには、このもつれた糸を一本一本ときほぐすことが必要なのであり、評論家風にアナキズムを他在として評論することではなく、ときほぐす作業へ主体的に参加することが求められています。

今日のアナキストの分散性は、アナキストの多様性の直接的な現われであろうか。もしそうであるなら、それはかならずしも否定的なものとはいえないであろう。アナキズムの多様性は、それだけではアナキストの連合のさまたげとはならないだろうからである。アナキストの連合を妨げているのは何か。それは早急に解明されなければならぬ問題である。

現在のアナキズム運動の最大の欠陥は何であろうか。それは革命運動にとってもっとも重要なこと、すなわち、現在の社会を変えて次にとどのような社会を創ろうというのか、未来社会の、あるいは自分達の理想とする社会が少しも明確ではないということである。確に、アナキズム関係の文献、それも古典とでも呼ばれるべき文献を読むなら、集産主義あるいは無政府共産主義社会という

ものが述べられている。それは、かつてのアナキスト達にとっては、自分達の求める社会が明確なものとしてあったということであろう。しかし、現在のアナキスト達のうち、いったいどのぐらいの部分が自分の求める社会を明確にしているであろうか。ここで明確にするというのは、何も徹に入り、細に入り、その求める社会を説明できるということではない。どのような簡単なイメージなり、言葉でもいいから、自分はこういう社会を求めているのだ、と明言できるかどうかということである。支配のない社会だとか、自由で平等な社会だとか、抽象的に語ることはできるであろう。しかし、それは我々がかつてのアナキスト達に比べてさえ、とめどもなく後退しているということなのだ。現在のアナキズム運動は、このように次にくるべき社会を何ら明確にすることなく、

（もち論、我々はマルクス主義的な、あるいは進化論的な、必然性による歴史発展など信じはしない。それ故、なおさら自己の意志において、どのような社会を明確に求めるかを決めなければならない）運動形成を語り、アナキズムを語るのだ。すなわち、目標が何等決っていないのに、戦略が語られ、戦術が語られるという、きわめて逆立ちした状況を作り出しているのだ。このような根なし草的な運動としてある限り、アナキズム運動は、そ

の場に流されるだけで、何も蓄積することはできないであらう。

黒連はこのような認識のもとに、自己の求める未来社会として無政府共産制社会をかかげた。我々はA・O社会を宗教的信仰として拝跪しようとは思わない。我々は単に、未来社会の制度として無政府共産制を語ろうと思っているにすぎない。制度として考えるとき、無政府共産制は唯一の、絶対的の制度としてあらわれるものではない。そこには、多様なわが可能であらう。

以下略ー日本黒色連盟・レジュメよりー

波 万 波

☆「われらのバクーニン」一冊送って頂きありがとうございます。あと二冊頂きたく、とりあえず三冊分の代金を送ります。貴重で新しい内容がくみこまれ、まことによい出版でした。バクーニンについての画期的なものだと思います。

（KM生）

☆大変御無沙汰致しましたが、お元気で何よりと思います。

私今もアルバイト程度のチン作業に出ていてココ十五日程、手の一寸したケガで労災となり、通院旁々、雑役

程度の仕事に出ています。休んでしまえば元も子もなく、食べてゆけませんから、大会社とちがって中小企業は何の保証もありません。今年も残り少なくなりました。冬將軍も間近で生活の為の生活で、目一パイとなり、生きてもか死んでるのかわからない状態です。（中略）（リベルテールのご恵送ありがとうございます。いつもながら見るたびにすごく一段とさえてきました。三浦御老体!!切にご自愛下さいますように、又若い諸君によりしくお伝え下さい。

アナキー万才

人間万才!!

連帯万才!

（新明 文）

☆え、こんな紙しかないのやんすが、非常に疲労困憊故執筆するに至りました!!と変な書き出し、まず個人的に喜ばしい事には10月号だけでもしれないけれど、無政府主義誌ともアナキズムとも書かれていない表紙になったことは遺憾な事かもしれないけれど僕（ワチキ）にとってはより一層アナキーになる可能性がでてきたとささいな事ながら喜んで嬉しがっている始末。：（中略）それから10月号に関して云うなら「敗軍の兵は語る」に関しては今朝ラジオで「電気を停止させる」という事を聞き、なんてひどいと思っていた処で、夕刻リベルテ

ールが届きナンと想っている処。そこで思うのは国家権力、東電と云う社会問題だけでなく、この執行官なるものの、恐ろしきかなその人間としての在り方、「命令だから」の一点ばり、そう云った世界観が許されるような人間関係が作りだしているこの社会というもののオソロシサー。

「非暴力を考える」も好感をもって読めました。僕の今書いているのも主旨は良くにたものと思います。僕の今書いているのは、如何なる体質をもった運動斗争であつても一つの方法論を正当化し公認することは、その運動の質を退化させるものだと言ふことを主旨としたものでやんす。そしてそれは党や三角形の社会のもつ力、権力のみならず、僕の知るアナキストの多くが誤っていると思われる勢力によつて、社会変革が可能と云う認識をも否定して行かねば……ともかくそうしなければ理想社会ではなく吾輩の憧憬世界が抹殺されてしまつてやゝなのだ。……日本人と自称しなくとも日本人と云われたりするの何故更に黒連とか無政府主義者連盟とかそんなワクに入りたがるんだらうね。それにちよつと誤解あるね。「リベルテールとの実り多き対話の為に」……っていうのはよく分らないね。僕のイメージでは「よりよき人間関係を作らんとする無数に腕のある運動体の一つ」

がリベルテールじゃないでしょうか。それとある一つの「無政府主義者の集団」なのでしょか。江藤氏もまた「偶然統一見解が存在しないから、私が個人的に」と云うような書き方をして一人と集団の対話と云うものが可能なような書き方で黒連「集団に対峙せよ」と云うのは少々無理があるのではないのでしょうか。闘争と云うものは集団でできても、運動と云うものは集団では意味が成さないし、運動と云うものは、はじめた時点に於て既に万人に見えるか見えない程のものであつても発射された細い絆をもたねばならなく、そして展開するとは集団化し拡大し勢力と化し、権威をはらんでしまふと云うものであつては絶対ならぬ万人に発射された絆を少しづつであつても鮮明化し太いものにして行き、より強い連帯によつて、権威を形骸化させ、崩壊せざるを得ない世界を産みださんとする試行錯誤ではないだらうか。

僕は集団の必要性を云うものは、その目的意識が何であらうがそこには運動の最高形態と云うより、勢力を、ハ党、単なるアメーバ集団にしてもVつくることによつて成されるハ勝利Vの性急さの無意味な或は危険な請求が存在していると思います。(中略)

それから次にレーニン云々と云う処。云いだしたのは「黒連」の機関紙とか云うものらしいけど、こう云つた

ことを批判し合うのは非常に危険であり、無意味だと思ひます。運動としての批判、反批判であらうとするならば。何故なら正当→正統解釈論争になつてしまいがちです。歴史の解釈なんかは歴史マニアにでも任しておいた方がイイと思います。歴史的事実程イイ加減なものはないし、且つ権威的なものもないと思ひます。それはその価値観と視点によつてどうにも変わるのだから、現在の中国で行なわれている茶番劇がその典型ではないでしやうか。更に日共だつて此の間まではマルクス・レーニン主義を愛撫していた党らしいじゃありませんか。左の方の主義者は「イヤそんなことはない」と云い、右の方の主義者は「イヤ今でもヒソカニ暴力革命をメザしている」と云うかも知れませんがね。

全く同様な事が次ぎでも行われている。

「*1「無政府主義を求め——(中略)——理解に苦しむ」と云う部分。これもまた観念の押しつけあいである。「無政府共産主義」と云う自らのうちに捏造されてしまつた解釈(ケンイ)をその理解と平地平線にあると錯覚し、そのできあがつた自らの権威を知らぬ内に強要しているような文章ではないか。

だからやゝなんだ主義者は、すぐに何がより良く何が何故におかしいのかと云う認識を養ふと云うことではな

くどれ(だれ)が正しく、どれ(だれ)が悪いと云う解釈や選択運動を展開してしまふ。あまりにも不毛な。その原因は潜在的意識的かは知らないけれど「アナキスト」であると自称することによつて必要以上に同胞感を抱いてしまつてゐることである。吾々はアナキストであるよりまず万人の一人であると言ふ処から出発すべきではないだらうか。(中略)これはアナキストの誰かに向けた手紙ではござらん。とにかくこれを読む万人の中の任意の個人に向けたのであり、同時に「集団リベルテール」と云う団体に向けたアッピールではないことは周知の事と思います。以下略 (R08より)

*11 No.11 10頁下段7行目ハ「無政府主義」を求め……その原理及び形態を研究している「黒連」の人々が、なぜ我々の生きている社会の状況——それは制度であるとともにそれを支えている人々である——を正しく認識することを軽視するのか理解に苦しむVより。

(R08君へ)貴君の手紙を本紙用に筆写した編集子より答えます。先づここに引用した文章だけで貴君の言説を十分に、要点だけにしる伝えているかどうか、誌面の都合とはいへ相当部分をカットしたことを詫びておきます。なお江藤君のエッセイに関連して述べられている事

柄は公開の場の発言に対する一つの批評であり、論争に対する貴君のかかわり方だと理解して誌面にのせました。他意はありません。 Y 記

☆ウリ(WRI) ニュースは次ぎのように報じている。

※十一月三日朝七時半、WRI大阪事務所(サルトン・同井孝)及びそこから約10メートルはなれたWRI関連の部屋A号室(水田ふう)B号室(戸田るり子)の三ヶ所に、制服・私服の警官隊が来襲した。

※その家宅捜査令状にかかれた罪名は、ナント軽犯罪法違反容疑―それも氏名不詳の者が10月30日大阪商業大学構内に「天皇在位五十年祝典」に反対するステッカー20枚をはったが、その者と共謀し、準備した疑い―というわけ。同時刻に他の三ヶ所三名宅も五名宛の警官によってガサ入れが行われたが、いずれも入反民懇(反戦市民懇談会)ほくもそのメンバー)の中心の働き手で、またWRIの読者・支持者といった仲間である。

※そのこの状況等については、イオム197号(向井孝個人通信11月3日号)で速報し、WRIの仲間へ送ったので省略するが、その日以降サルトンへ集ってきた、のべ百数十人の仲間たちは、たゞちに反撃を開始、連日、ピラまき、集会参加、(昨夜は11・8天皇制をう

野 火

▽「江川さんを救済する会」(東京都小金井市東町5-30/2時田昌瑞方)から、江川允通さんに対する「強盗未遂・窃盗容疑」の犯人デッチ上げ事件に関する概要や問題点をまとめたパンフ「あるフレイムアップ―こっそりと思想裁判が行なわれている」(200円)が発行された。江川さんは事件発生(74年10月31日)以来二年以上も勾留状態におかれたままで、丈夫な身体ではないところへ横浜拘置所の悪環境にあるため、自律神経失調、視力の極度な低下、とくに歯が五本も抜け、いまでは上下噛み合う一對の歯さえなくなっている状態にある。当然入院加療しなければならないにもかかわらず検察・川崎地裁は、江川さんの断固たる闘いの意志に対する懲罰として保釈加療を認めようとし、という。「救済する会」は、「この事件は刑事事件という現象の模相を示しつつも、他方で事件を利用した権力側の政治的意図(思想弾圧、反革命的予防措置などの実践)が深部において確かに働いている」ととらえ、裁判闘争の目的をこうまとめている。「この裁判闘争で闘いとられようとしているものは、江川氏の即時奪還(保釈)を現時点の戦術的課題とし、直接的には江川氏の冤罪をはらすことであるが、刑事事件が政治色のない中立的なものだとする固定観念を打破し、江川氏の偶然的要素を利用した体制側の巧妙な人権力犯罪の真態をあばき出すことでわれわれ

つ関西大講演集会(五百名ちかく集った)でアピールして(天)ステッカー(手許あった18組を200円以上のカンパでわけるといったら、あつという間に各所から手がさしのはされてなくなり四五五〇円あつまった)、尾行つきといういやがらせにもかゝらず、みんな一そいう元気ではりきっている。もともとほくらは何一つわるいことなんかしてないし、むしろ正しく立派なことをやっているわけだから、堂々たるものだ。(天)ステッカーをつくったり、持っていて何がわるい、と問いかえしたら、それは自由ですーとポリもちゃんと説明している。

物心ともの支援を!! ウリ 向井 孝

連絡先 大阪市阿倍野区旭町2-12-2

石川三四郎さんが亡くなって二十年の会

「石川さんを敬愛する老・中・青の三代が相寄って語る集りを企画しました。奮ってご参集のほどを。」

日時 十二月一日(水)午後六時

場所 雑誌会館会議室(二九一〇七七五)

講師 三浦精一、鶴見俊輔、北沢文武

の平凡な日常生活のなかに隠された政治性を撃つことなのである。」また江川さんは、自分の国家権力との斗争は、①法廷闘争(保釈を勝ちとり、無罪という事実を認めさせる)と、②反一獄中弾圧闘争(現監獄法秩序との闘い)の二つの面があるが、これらは別のものでなくその「意義」において「反ファシズム闘争」として一つのものである、と説明し、次のように呼びかけている。「旧大日本帝国は、敗戦―占領によって、その絶対主義的、軍国主義的秩序が解体されたかのように見えますが反一現憲法の監獄法の改正はサボリ(もう一つ残してあるのが、爆発物取締罰則という太政官令が何かです)、高い壁で社会の眼からさえぎられた監獄の中にこの絶対主義的、軍国主義的秩序を大事に保存しています。反動的司法を前衛とする警・検察ファシズムの荒波が日本全土を呑みこんだとき、その水をファシズム色に染めるのは、監獄の中に濃縮、保存されているファシズムの「もと」です。我々獄中者は、反一獄中弾圧闘争によって、来るべきファシズムの基幹要員と闘い、ヤツ等が押しつける監獄法秩序を粉砕しなければならぬ―そしてそれこそ迫り来るファシズムに対する防禦戦にとって大きな戦略的意義を持つものなのです。どうか我々の反一獄中弾圧闘争を支持してください。現段階では、それは「憲法を守れ」の旗をひるがえしての闘いなのです。敵にとっては、それは何よりも弱みでしょう。」なお、次回公判は12月6日。

▽『イオムIOM』196号(11月1日)で、向井孝さんが「天皇在位五〇年」に関して、見えない天皇制の意味を説明している。「……つまり、ぼくの日常の位置からは全くみえない天皇制が、いわば天皇制がもつとも露骨に貫徹されている場所―その階級あるいは階層といった位置に―自分を置いてみる―という思考操作によって―それは、はっきりと見えてくる。(現在、もっともそれははっきりしている所―といえば、例えば監獄である。そこでは、ちょっと反抗的眠つきをした、というだけでも看守から懲罰をうける。それがどんなに不法で行き過ぎだとしても、すべての対抗手段は奪われてない。――)……ぼくらの、しあわせとも云うべき日常では全く気付かないが、天皇制は、たえず止むことなく、最底辺にある人たちに對しては、至極酷薄無惨に、人殺しの行為を日々やっている。それに気付かない、見えないということとは、たまたまぼくらは何もせず、あたりさわりのない日常において、今のところのんびりと放置されている―めぐまれた中間的位置にいる―ということにほかならない。もし一歩、ふみ出した行為が、天皇制に触れたならば、どうなるか、を夢にも想像することなく――」……「とすれば、当然、ぼくらがもつ問題の根底につながって、天皇と天皇制の廃絶が社会変革そのものとして明らかになるだろう。……だから又、天皇制と闘うというとき、ぼくらは自分の内心にある―天皇にふれるのはおそろしい。さわらぬ神にたたりなし―という己れ

思想をも、まず闘いの対象としなければならないことになる。……」

▼『労働者の連帯』の第2号(76年10月)が出た。発行は、「地域労働運動研究会」(東京都北区桐ヶ丘123B401406前野方)で、各地に自立的労働者グループをつくり、「社会革命をめざす労働者の全国的連帯」を目ざしている。紙面には、同研究会の主張、活動の報告、他の運動体の紹介、書評が盛り込まれ、研究会の着実な活動ぶりがうかがわれる。また、フランスの状況主義者の系列のラッシュェブという人の『山猫ストライキから全面自治管理へ』が翻訳され連載されているが、新しい視点からの労働者への呼びかけとして大変面白い。(江藤記)

▼『埋もれた女性アナキスト

高群逸枝と「婦人戦線」の人々」と題して往年の女闘士達の回想集がでた。その学殖がどの程度で成熟した思想を持っていたのかどうか調べていないが、高群逸枝は童女じみて居、不協和音では観音さんの申し子とか、貧しさにめげず資料カードを作っていたとか、那丹の指導よろしきを得て天才を開花させたとか、クロボトキンを読んだことがなくてアナキズムを語ったとか、従って後年彼女の著作集からは「婦人戦線」に立つVに抄録されたようなアナキスト文章はサク除したのだとか……にぎやかにはある。しかしこの冊子で語られる逸枝はまぎれもなくアナキストの面影があり、昭和5・6年頃の彼女はこの執筆者達と共働して文学を中心に据えアナキ

ズム運動をしていたのだ。「婦人戦線」の総目次から推察すると、主題はコミュニストに對抗し、女性問題を経済活動、性生活、無政府主義に關連づけ論陣を張っている。既に老令に達した彼女達の若い日の活動の一つのエピソードに終らせない為にも若い人だとの一読を望む。

なお付・回想談「太平洋戦争下のアナキスト―八木秋子の場合」では転向者として満州へ渡った生活の苦労とソビエトの参戦による現地の混乱、ソビエト兵の暴行による友人の自殺を語り、それが彼女の足跡を消しつつ生きようとする姿勢につながるのが明らかにされている。外的条件によるとはいえ、一度自己の信念なり思想を公的に棄てざるを得なかった立場の人にとって、その後の生き方は苦渋に満ちたものになっている。この一文でみる限り彼女の戦後は終っていないが、何よりも死を選んだ友人に對する誠実さが、思想に對する彼女の誠実さを証明しているよう。地獄図のような現実を思想を持っているが故に、普通人とは一味違った平静さで生き抜き、淡々と語る心境が好ましい。

発行同人 望月百合子 文京区千石町4の33の6、延島治子 東村山市青葉町1の7の1、八木秋子 清瀬市元町2の10の7栄荘他 (Y記)

★忘年会☆リベルテールの会の忘年会は十二月十八日土曜日午後六時半より新宿にて行ないます。場所は酒舗、一色。新宿御園の前、ラシントンホテルそば、モサク舎の近くで新宿通りに面した所です。会費三千円。誰でも

紹介状等一さいなくて参加可、連絡等もいりません、突然来て下さい。会費が少し高いのが玉にキズだけでも酒はビールでもなんでも飲みほうだいのようです。今年の責任者はKさん。リベルテールを読んでいるのはどういう人か、見るのも一興です。(よしは)

★11・10天皇制を考える集会★水道橋中央労働会館で午後一時半頃より全国の反天皇集会と連帯して「天皇制を考える集会」が開かれた。いくつかのアピール、報告等の後、これからのアナキズム運動の方向性などを考慮しつつ、個人個人の天皇制等についての考えが述べられ、午後五時、集会は終った。

本集会についての僕の考えは(1)冤罪符の如き、あるいは告白の如き、「アナキスト云々」はよすこと、(2)マルより理論的にひどいという認識をよすこと、(3)なるべく正確により正しく言葉を考え、話すこと、を提案したい。又、僕達自身のことでは何もできないとか、どうやっていいかわからないとか、展望がないとかいわないこと。やりたい人がやるのであり、やる必要がある人がやるだけなのだから。やるのがこわい人ややる必要がない人が展望がないといったって何のことか僕にはわからない。アナキスト云々が会話の中に多かったが、そんなことは気にしなくていい。(よしは)